

またイエスは道の途中で、生まれつきの盲人を見られた。9:2 弟子たちは彼についてイエスに質問して言った。「先生。彼が盲目に生まれついたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。その両親ですか。」9:3 イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現われるためです。9:4 わたしたちは、わたしを遣わした方のわざを、昼の間に行なわなければなりません。だれも働くことのできない夜が来ます。9:5 わたしが世にいる間、わたしは世の光です。」9:6 イエスは、こう言ってから、地面につばきをして、そのつばきで泥を作られた。そしてその泥を盲人の目に塗って言われた。9:7 「行って、シロアム (訳して言えば、遣わされた者) の池で洗いなさい。」そこで、彼は行って、洗った。すると、見えるようになって、帰って行った。9:13 彼らは、前に盲目であったその人を、パリサイ人たちのところに連れて行った。9:14 ところで、イエスが泥を作って彼の目をあけられたのは、安息日であった。9:15 こういうわけでもう一度、パリサイ人も彼に、どのようにして見えるようになったかを尋ねた。彼は言った。「あの方が私の目に泥を塗ってくださって、私が洗いました。私はいま見えるのです。」9:16 すると、パリサイ人の中のある人々が、「その人は神から出たのではない。安息日を守らないからだ。」と言った。しかし、ほかの者は言った。「罪人である者に、どうしてこのようなしるしを行なうことができよう。」そして、彼らの間に、分裂が起こった。9:17 そこで彼らはもう一度、盲人に言った。「あの方が目をあけてくれたことで、あの人を何だと思っているのか。」彼は言った。「あの方は預言者です。」9:34 彼らは答えて言った。「おまえは全く罪の中に生まれていながら、私たちを教えるのか。」そして、彼を外に追い出した。9:35 イエスは、彼らが彼を追放したことを聞き、彼を見つけ出して言われた。「あなたは人の子を信じますか。」9:36 その人は答えた。「主よ。その方はどなたでしょうか。私がおの方を信じることができますように。」9:37 イエスは彼に言われた。「あなたはその方を見たのです。あなたと話しているのがそれです。」9:38 彼は言った。「主よ。私は信じます。」そして彼はイエスを拝した。9:39 そこで、イエスは言われた。「わたしはさばきのためにこの世に来ました。それは、目の見えない者が見えるようになり、見える者が盲目となるためです。」9:40 パリサイ人の中でイエスとともにいた人々が、このことを聞いて、イエスに言った。「私たちが盲目なのですか。」9:41 イエスは彼らに言われた。「もしあなたがたが盲目であったなら、あなたがたに罪はなかったでしょう。しかし、あなたがたは今、『私たちは目が見える。』と語っています。あなたがたの罪は残るのです。」

人間には外見で人を測る傾向があります。例えば、高級服を着ている人とよごれた作業着を着ている人がいた場合、「高級服を着た人の方が立派だ」と判断する傾向があります。しかし、人間の価値は外見だけで判断できません。高級服を着て、高価な装飾品を身につけていても、その人は詐欺師かもしれません。親の財産を食いつぶして、遊び暮らしているだけの人もかもしれません。その反対に、よごれた作業着を着ていても、世のため人のために尽くしている人々は多くいます。

外見で人の価値を測る傾向は、イエスの弟子たちにもありました。今日の箇所、イエスと弟子たちは生まれつき目が見えない人に出会いました。すると弟子たちは、「先生。あの方が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。あの人ですか。それとも、あの方の両親ですか。」と質問しました。この質問には、外見で人を判断する傾向がはっきりと現われています。つまり、「生まれつき障害のある人は障害のない人より劣る」という判断です。「本人か両親が特別な罪を犯したから、障害をもって生まれて来た」という判断です。「障害のない人は、本人もその両親も特別な罪を犯していない」という判断です。イエスはこの機会を逃さず、未信者への伝道と弟子たちの間違った考えを正す教育に用いました。イエスが行ったことは私たちにも関係あるので、私たちが注目しましょう。

#### I. イエスは神としての力で、この人の目を見えるようにしました

イエスはまず、「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。」と弟子たちに答えました。確かに、障害の中には人の愚かさによって生じるものもあります。悪い生活習慣で障害者になる人もいます。しかし、この人の場合は、本人や両親が特別な罪を犯したせいではありませんでした。では、どうしてでしょうか。それは、私たち人間には知らされません。イエスも直接の原因を教える代わりに、「この人が生まれつき目が見えないのは、神のわざがこの人に現われるためです。」と答えました。これは、「私がこの人の目を見えるようにします。」という確約です。そして、「私はこの奇跡を通して、私が神から遣わされた救い主であり、ダビデの子孫から生まれると旧約聖書に預言されているメシヤ (救い主) であることを世の人々に示します。」という宣言でした。そうすることによって、イエスは父なる神の栄光を現わすつもりでした。

ところが、この人の目を直すためにイエスが取った行動は、ちょっと変わっていました。イエスはつばきをして地面を湿らせ、泥を作り、それをこの人の目に塗りました。そして、「行って、シロアムの池で洗いなさい。」と告げました。この人は目が見えなかったため、自分に話しかけている人が誰かを知りませんでした。その人を信頼して、言われた通りに洗いました。すると、目が見えるようになりました。このような奇跡が起こると、まねをしたり、「イエスがつばをした地面やシロアムの池の水は特別にきよい」と崇める人々が出て来るものです。世の中には、「どこどここの何々は特別にきよい」と人々が崇める物や場所がたくさんあります。しかし、そのように考えるはいけません。この人の目を直したのは、イエスのつばで

作った泥でも、シロアムの池の水でもありません。イエスの神としての全能の力です。

しかし、イエスが「直してあげよう」と約束して、全能の力を用いるつもりでも、この人がシロアムの池に行かなかったら、見えるようになりませんでした。この人の目が直ったのは、イエスのことばを信じる信仰を通して与えられた恵みでした。神の命令は人間の理性にとって受け入れがたいことがあります。例えば、ノアは見たことも聞いたこともない大きな箱舟を造るように命じられました。アブラハムは「生まれ故郷と親族を離れて、わたしが示す地に行け。」と命じられました。また、「あなたの愛するひとり息子イサクを、私が示す山の上でいけにえとして捧げなさい。」と命じられました。マリヤは神の戒めに従って、結婚前に男性と関係を持たないでいましたが、突然に現われた天使によって、「あなたはみごもって男の子を産みます。名をイエスと付けなさい。」と告げられました。しかし、この人々や今日の箇所目の見えない人は、神を信じて、告げられた通りに行動しました。それが信仰です。

## II. イエスは罪人ではありません

この人の目が見えるようになったことは人々を驚かせました。このニュースはパリサイ人にも伝わりましたが、彼らは喜びませんでした。彼らの反応は、「この生まれつき見えなかった人を直した人は、安息日にははいけなことをした。第三の戒めを破った」でした。彼らの理屈で言えば、安息日に泥を作って、この人の目に塗ったことは罪でした。確かに、神は第三の戒めで、「安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ」と命じ、その日に働くことを禁じました。けれども、神が第三の戒めを定めた目的は、人々に神のことばを聞かせ、魂の安らぎを与えるためでした。そのために、毎週の7日目を安息日とし、働くことを禁じました。しかし、困っている人を助けることまで禁じませんでした。例えば、安息日でも、穴に落ちた家畜がいたら助け出して良いし、飢えている人がいれば食事を作ってあげて良かったのです。しかし、これらのことも、パリサイ人の理屈ではいけませんでした。もっと正確に言えば、パリサイ人は他人に禁じることを自分では平気とするのに、他人が同じことをすると、「それは罪だ」と自分のことは棚上げにして批判しました（マタイ 12:5；ルカ 14:5,6）。

当然ながら、パリサイ人はイエスのしたことを快く受け入れませんでした。「その人は神から出たのではない。その人は罪人だ」とイエスを批判しました。善意で人助けをしたのに、イエスは悪く言われました。パリサイ人がイエスを悪く言ったのは、この箇所だけではありません。四つの福音書を読むと分かりますが、パリサイ人は律法学者と一っしょになって、くり返し、くり返し、イエスを悪く言いました。これもイエスが救い主として受けなければならぬ受難でした。なぜなら、創世記 3 章 15 節から分かるように、悪魔（おまえ）と救い主（女の子孫）の間には敵意があるからです。悪魔の子孫（神を拒否し、罪のうちを歩む者＝不信者）とイエスの間にも敵意があるからです。悪魔だけでなく、不信者からの敵意に善で打ち勝つことも、救い主としてのイエスの戦いでした。イエスはその場にいなかったので自分を弁護できませんでしたが、目を直してもらった人がイエスを弁護しました。この人はむずかしいことを言えませんでした、「あの方は預言者です」とパリサイ人を恐れずに言いました。すると、「おまえは全く罪の中に生まれていながら、私たちを教えるのか。」と非難され、外に追い出されました。これは、イエスを信じる人が避けて通れない受難です。

## III. イエスは福音の力で、この人の信仰の目が見えるようにしました

「目を直してあげた人がパリサイ人のところから追い出された」と聞いて、イエスはその人を見つけ出しました。そして、「あなたは人の子を信じますか。」と質問しました。イエスは自分自身をしばしば「人の子」と呼びました。「人の子」は聖書独特の表現で、「旧約聖書に預言されている救い主（メシヤ）」のことです。つまりイエスは、「あなたは救い主を信じますか」と質問しました。少し前、イエスはこの人の肉体の目を開いて、見えるようにしました。今度は、この人の心の目、信仰の目、霊的な目を開いて、救い主を見ることができるようになりました。なぜなら、この人はまだ誰が救い主であるかをはっきり知らなかったからです。イエスはこの人の信仰を強めたいと思いました。

その人は、「どなたがその救い主でしょうか。私がおの方を信じることが出来ますように。」と答えました。するとイエスは、「あなたと話している私がおの方の救い主です」と宣言しました。その人は「主よ。私は信じます。」と言って、イエスを拝しました。すばらしい信仰告白です。この人はイエスからすばらしい祝福をもらいました。この人は肉体の目でイエスを見ただけでなく、信仰の目でイエスをみました。この人は一番必要な方を見ることができました。この人の目が生まれつき見えなかったのは、この人が何か特別な罪を犯したからではありませんでした。けれども、神のきよさの基準に照らし合わせれば、この人も他の人と同様に罪人であり、罪が赦されないまま死ぬなら、神から永遠の有罪を宣告され、地獄で永遠の苦しみを受けました。しかし、この人は信仰を通して、罪の赦しと永遠の命を与えられました。

世の中には、パリサイ人のように、生まれつき肉体の目は見えているのに、信仰的な目が見えず、耳がきこえない人々が多くいます。パリサイ人は「私たちは見えている。物事を分かっている。」と自負していましたが、イエスから見れば、何も見えていませんでした。何という不幸でしょう。神は人間と違って、外面的なことで人間を判断しません。神は心を見ます。ですから、罪があるかないかを外面だけで判断しないようにしましょう。私たちも生まれつき罪人なので、イエスを救い主と信じ続けましょう。私たちの霊的な目を開き、霊的な耳を聞こえるようにすることができるのは、イエスだけです。